

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700399		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおとふけ		
所在地	音更町木野大通東17丁目1-4		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanl=true&JigyosyoCd=0194700399-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年3月に開設したばかりの新しいグループホームです。商業地区にあり日常的な外出機会を持ちやすく、国道にも近いため面会等にも公共交通機関の利用がしやすく便利です。徒歩範囲に協力医療機関があり、定期的な往診と訪問看護で健康面のサポートを受ける事ができるため安心して生活することができます。国道の反対側には閑静な住宅街があり、町内会に加入し地域の一員として活動したり支援を受ける関係づくりに努めています。運営会社の母体法人が給食会社であるため、栄養バランスと楽しさを兼ねそろえた献立となっております。充実した社内研修制度と職員体制により、安定したサービス提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームおとふけは、音更町の商業地区の中で近くには協力医療機関があり、買い物や国道に近いので公共交通機関の利用が便利な場所に立地している。開設前の研修期間に職員全員で話し合って作った「笑顔でゆとりのある空間を目指します。人と人のふれあいを大切にします。尊敬する心を持ち共に支えあいます。」を理念とし、日々の申し送りや毎月の全体会議で振り返る機会を作り、実践に向けて取り組んでいる。開設から1年未満であるが町内会に加入し、地域の行事や総会に参加して地域と交流し、事業所への理解と協力関係が築けるように取り組んでいる。母体法人の機能を活かして法人の管理栄養士がメニュー考え、栄養バランスや季節のおいしい食材を活かし、食事が楽しみになるような食事を提供している。また法人全体で年間研修計画を立て、新任職員、中堅職員等段階に応じた研修機会を確保しており、事業所が希望する研修をキャリアパス支援事業を活用し外部から講師を呼び、同法人の他のグループホームと協力して実施している。共用スペースの椅子に半日座り、利用者の目線や気持ちを体験することで利用者の気持ちになって支援できるような実習も行い、サービスの質の向上に努めているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で話し合い事業所理念を作成し数か所に掲示しています。入居者一人ひとりの事を考え尊敬する心を持ちケアに取り組んでいます。	理念は開設前の研修期間に職員全員で話し合っ作り、全体会議や日々の申し送りの際に振り返る機会を作り、管理者や職員は共有して実践につなげている。また、各ユニットの入り口や事務所内の見易い位置に理念を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所は地域の一員として町内会に加入し行事や会議などに参加していただいています。地域の方々へ挨拶を通じて当事業所を知っていただき地域との交流を大切にしています。	利用者が地域とつながりながら暮らせるように町内会に加入し、地域のお花見やゴミ拾い等の行事に参加し、総会や親睦会にも積極的に出席して地域の方々に事業所を理解して貰う取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	設立して間もないのでこれから取り組んでいきます。地域として今どのようなニーズが求められているかを考えていきたいと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い各ユニット・事業所全体での取り組みや職員の状況についての報告・事故報告を行っています。御家族の参加があった場合には事業所に対しての意見などを伺いサービスの向上に生かしています。	運営推進会議は、町の高齢者福祉課の職員、町内会の方々、家族、地域包括支援センター職員等が参加し、2か月毎に行っている。また、事業所の取り組みや利用状況、発生した事故と再発防止策等を報告し、参加者と意見交換しながらサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当の方は運営推進会議を通じて事業所の実情を理解していただいています。そのため事業所内で判断に迷う場合には相談しやすい関係になっています。	町担当者や包括支援センターとは、運営推進会議や日常業務を通じて交流を図り、事業所内の実情を理解して貰い、運営上判断に迷う時には気軽に相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が身体拘束になるか経験の浅い職員が学べるように研修に参加したりミーティングでの報告を行っています。入居者様の気持ちを尊重し、帰宅願望があれば会話をしたり行動では見守りを心がけています。転倒リスクのある方にはご家族と相談し最善の方法を考え不適切なケアにならないよう心掛けています。扉は常に開放していますが夜間のみ防犯上施錠しています。	管理者及び職員は外部研修や法人内研修を通じて、身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われている。また、玄関は夜間の防犯目的以外の施錠は行っておらず、身体拘束をしないケアや不適切なケアにならないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実際にあった新聞記事を職員の休憩室に掲示し啓蒙しています。外部研修や内部研修の参加を行い学習の機会を作っています。特に言葉による精神的虐待にならないよう職員同士で注意し常に意識していけるようにしています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会はあるが現在までの入居者に該当者がいないため活用は出来ていません。知識としてはない状態だと思います。成年後見制度については今後利用される方もいると思うので御家族へ説明出来るよう内部研修などを行い学習の機会を増やしていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が全て対応しています。文書を用いて口頭での説明を加えながら詳しく説明を行い、不安や疑問点がないか確認し、理解・納得のうえで契約に至っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族は面会時などに管理者・計画作成担当者・職員の誰にでも話して下さい。開設して間もないですが、今後要望やご意見は早期に反映しミーティングなどで検討・改善できるよう努めていきたいと思っています。	訪問時に利用者の近況報告と共に意見を言って貰えるように取り組み、家族からの意見や要望は速やかに話し合い、改善できるよう努めている。また、事業所への意見や要望についてアンケートを実施し、ケアの質の向上や運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い職員の意見や提案を聞く機会を設けています。年2回は管理者と個別面談などで職員の意見を聞く機会を設け言いやすい環境作りにも配慮しています。代表者とは話す機会が少ないが職員に代わって管理者が報告を行っています。	管理者は、職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心がけており、年2回の個人面談や毎月の全体会議、日々の業務の中で職員の意見、提案を聞く機会を設け、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事内容や労働時間は無理な勤務にならないよう配慮されています。休日等は職員の希望を考慮し働きやすい環境作りに努めています。資格内容によっては多少の違いはあるが開設間もないので職員が納得できる給与体系には時間を要します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行っており経験年数に応じた研修会へ全職員を対象とし勤務時間内で行っています。外部研修には多くの職員が参加できるよう休憩室に掲示しています。研修発表の場をミーティング内で設け情報の共有化をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にも積極的に参加しており同業者と会う機会はありますが、交流の機会としてコミュニケーションを図れる人と学習のみで終わる人がいるため性格や目的意識により個人差があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集した上で入居の準備を進めています。入居前に本人や御家族と面談やホームを見学していただき入居されてから不安なく生活してもらい、要望など言っていただけるよう気を配り住みやすい環境に出来るよう努力しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族と面会を行い困っている事・不安な事・要望などを伺い、必要な情報は全職員で共有しています。今後も、御家族の方には些細なことでもホーム長・計画作成担当者・職員に気軽に声を掛けていただければ幸いです。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時には他サービスも含めて検討し助言しています。今後も、入居相談の段階で在宅継続やリハビリ施設などの紹介を行っていきけるよう努めています。入居段階では福祉用具などの活用を紹介し本人や御家族と一緒に考えています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として関わりあっていく関係作りに努めています。入居されてからようやく環境に慣れてきたので少しずつ役割を持つ事を増やしていきたいと全職員努力しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会や外泊の機会を大切にしながらホームに来やすい明るい環境を作るように心掛けています。行事の際にはお手伝いも含めて参加して下さる方もいます。今後更にご家族との絆がよりよいものになることを目指しています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪れやすい雰囲気作りに努めており、多くの来訪があります。ホームからお墓参りや自宅庭の手入れに行く時もあり、通い慣れたスーパーへ買い物に行く方もいます。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を忘れる事がないよう、馴染みのスーパーや理美容院を利用したり、家族の協力で自宅に帰ったり、お墓参り等にも出かけられている。また、知人や友人との関係が途切れないよう来訪しやすい雰囲気作りも心がけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が顔を覚え会話が増えてきています。集団を避ける利用者は孤立する事ないように職員が気を配り声を掛けに行ったり見回りを多くし支え合えるような支援に全職員努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退居された方はいませんが今後サービスが終了された場合でもご本人や御家族との関係性を大切に継続的に相談や支援が行えるよう努力したいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの訴えは少ないので希望を聞けるよう努め職員同士で情報収集を行っています。入居者がたくさんいると話さずらい方もいるため入浴中や居室で休まれている時に話を聞き時には本人の意思を述べられる事もあるのでケアに反映できるよう職員全員で検討しています。	センター方式のBシートを活用し、家族からの情報や生活歴、日常の会話や表情などから思いや意向をアセスメントしている。また、職員全員で情報を共有し、本人本位の支援になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にケアマネージャーより情報提供を頂き、御家族にはフェイスシートの記入に協力いただき一人ひとりの馴染みの暮らし方・今までの生活環境などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の記録や日々の記録に記入し現状の把握に努めています。有する力が介護者によって阻害されないよう情報共有をし日々の変化を伝えています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言葉や課題について探りご家族の面会があった時に話し合い意見などは反映し1か月に1回ケアカンファレンスを行いケアの在り方について職員全員で検討を行っています。決定した事項から介護計画書を作成し、現状に合ったケアが行われるよう職員一人ひとりが努力しています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族と話し合い、それぞれの意見や思いを反映させるよう取り組んでいる。また、毎月のケアカンファレンスで職員全員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事は記録や業務日誌・申し送りノートに記入し情報共有化に努めています。またケアマネージャーは記録を確認し利用者の状態の変化によって介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の要望には可能な限り対応できるよう努めています。ペットの面会も行っており今後も本人やご家族の思いを大切に出来るよう努力していきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設との合同夏祭りではご家族の協力もあり入居者が楽しむことができました。今後、大きな行事をする際に福祉関係の高校生のボランティアなどの依頼をしてみたいと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診や訪問看護はあります。ご本人やご家族の意向を伺い、入居以前からのかかりつけ医への通院を継続できるように支援しています。また医師への情報提供や通院介助も行っています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、協力医療機関による医師の往診や訪問看護師との連携で、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関からの訪問看護を毎週受けています。ホームで健康に過ごすための助言を頂いています。主に体調面を伝えていることが多いので認知面や心配な事などを把握していただけるよう努力したいと思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設間もないため、現状では検査入院のみとなっています。入院した際には、管理者と計画作成担当者でお見舞いに行っています。お見舞いに行った時には、医師や看護師との情報交換を行い、ムンテラに同席しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化していくたびに医師へ相談し意見をいただくなどしており今後予測される状況や可能なケア内容をご家族へ伝え一緒に考えています。	重度化、終末期については、利用時に事業所のできることを説明し、家族と同意書を交わしている。また、本人や家族の希望や意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、早い段階から本人の状態や事業所が支援できる限界を家族に丁寧に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるよう全職員が救急救命講習を受ける機会を設けています。今後、緊急対応があった場合には対応をした職員を中心に良かった点と改善点をあげて次へつなげていきたいです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っています。地域の方やご家族が参加して下さり意見をいただいています。	緊急時に職員全員が速やかに対応できるよう実技を伴う避難訓練を、消防署の協力を得ながら、年2回夜間や日中を想定し実施している。また、緊急時マニュアル、定期点検や非常招集連絡網も整備している。	避難訓練には、地域の方々も参加されているが、今後は、地域の方々にも不測の事態の際の協力関係を築き、具体的に担ってもらう役割等も明確にして地域との協力体制を築けるような取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として失礼のないように言葉かけや態度には心掛けています。丁寧な言葉を使い尊敬の気持ちを忘れないよう全職員が努力しています。	職員はプライバシーの確保の徹底を図り、職員は接遇研修を通じて本人の思いに沿ったケアに努めている。個人情報の取り扱いについては、十分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけご本人に働きかけ決定していただくよう支援しています。意思の伝達が難しい場合は表情や普段の会話から関係性を築いていけるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしを支援しています。利用者によっては出来ない場合があるため動機づけを行っていけるよう努力したいと思います。安全のためや共同生活ゆえの程度の決まりごとはあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問美容室の利用や季節に合った服装をできるだけご本人に選んでいただくなど気を配っています。入浴後に化粧水やクリームを顔につけたりしています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症が軽度の方が多いため調理の盛り付けや食器洗い・食器拭き・片付けなどを体調や表情・体への負担など確認しながら見守っています。	メニューは法人の管理栄養士が作成し、利用者の嗜好や栄養バランスを考慮した食事を提供している。本人のその日の体調や気分を見極めながら調理の盛り付けや食器洗い・食器拭き・片付けを、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立を提供し食事・水分量を記録しています。水分を摂取しづらい方には個々に合わせた物(嗜好・嚥下・体調)を提供できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科による検診が年1回あり必要に応じて往診を導入しています。毎食後の口腔ケアを支援し介助が必要な方は口腔ケア用のスポンジを使用したり、歯磨き後の仕上げで歯間ブラシを使用しています。舌の汚れの確認がしづらい事があります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者の体調に合わせて排泄パターンを把握しトイレへ誘導しています。オムツの使用を減らす事は難しいですが皮膚の状態や衛生状態が保てるよう努めています。	水分、排泄のチェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ゆっくり排便が出来るような環境を整え、起床時にヨーグルトや牛乳・ヤクルトを飲んで頂いたり体操をして体を動かす機会を作るよう努力しています。自立されている方の排便状況が把握できていないこともあるため今後の課題にしたいと思います。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり入浴日は決まっていますが本人の体調や気分によっては柔軟に変更しています。拒否の強い利用者は心身状態・ご本人の意向、ご家族の意向に沿いながら、不衛生にならないよう誘導しています。時間帯は危険がないよう職員が多い日中のみで対応しています。	週2回を目安に、本人の意向を確認しながら無理強いないように心がけている。時間帯は危険がないよう職員が多い日中に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調などにより居室で休めるように配慮し適度な声掛けも行い夜間は光・音・温湿度に気を配り安心して眠れるよう支援しています。特に就寝と起床時間は決めておらず個々の生活習慣に職員が合わせられるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容について作用・副作用共にいつでも確認できる場所にあります。服薬変更時には注意点など記入し職員全員で経過観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持てる人と困難な人がいます。レクリエーションを楽しみとする方が多いため楽しく過ごしていたりできるようにミニバレーやカルタ・歌を歌うなど行い喜ばれています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に少人数での目的を持ったり家族との外出支援やご家族の協力もあり大人数での外出支援を行うことができました。喜んでいただけるよう利用者の興味や楽しみを調べたいと思います。	日常的な散歩や買い物、芽室町の菖蒲園、帯広の七夕まつり、地域のお祭り、お菓子工場への見学、外食など、家族の協力も得ながら利用者が楽しめるような所や気分転換に繋がるように外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は1名います。本人より希望があれば職員と共に近郊のスーパーまで買い物へ行くなど支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合はご家族に相談をし承諾を得てから支援をしています。時間帯や本人からの内容によってはその都度納得していただけるような説明を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからリビング全体が見えて安全確保は出来ています。太陽の光などを取り入れ温度・湿度・換気には気を配っています。季節に合わせた飾りをするなどして四季を取り入れています。音などには配慮できるように工夫していきたいと思います。	共用スペースは広くゆったりとしており、壁には季節に合わせた飾り付けや行事や日常生活の様子の写真が掲示され、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような空間になっている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は決まってはいませんが利用者同士が会話出来るようオープンになっておりくつろいでいます。居室で過ごされている方もいるため見守りをすることもあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を居室に置いて頂けるよう伝えていきます。居室に思い出の写真などが少ない方もいるためご家族にも依頼してみようと思います。落ち着いて暮らせる空間作りに努力していきたいと思います。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれて、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりが設置されており安全に歩行できるよう環境整備をしています。居室の表札はありますが、ホーム全体がわかりやすい掲示方法を今後の課題として取り入れたいと思います。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700399		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおとふけ		
所在地	音更町木野大通東17丁目1-4		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1F ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700399-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年1月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2F アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でゆとりある空間をめざします」などを理念に掲げホーム内の目立つ所に掲示し日々ケアに取り組んでいます。常に意識することが望ましいですが、悩んだり、迷っている時には理念に立ち返って考えるように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(七夕まつり・収穫祭など)への参加や他施設と夏祭りを行ない交流を図っています。課題としてはボランティアが入っていただけのように取り組んでいく必要があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に認知症などについて話す機会はありませんが、町内会の行事に参加し、入居者と交流を図ることができました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回各ユニットの入居者や職員の現状、行事や職員研修、事故についての報告を行なっています。ご家族や地域の方より出された意見をサービス向上に生かせるように取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に事業所の実情を伝え助言をいただいています。また、運営推進会議の際には地域やご家族の疑問や意見などへの町の見解、他市町村の動向など伝えていただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならないよう努めています。夜間帯のみ安全防犯上玄関を施錠しています(出入口)声掛けや目配りで安心・安全でいられるように日々話し合いながらケアに心掛けています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加するなど常に意識し職員同士で注意をはらいながら職務にあたっています。外部研修や内部研修に参加することにより、改めてどのようなことが虐待にあたるかなど勉強し日々防止に努めています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設時の研修で話を行なったが以降に入社した職員には研修は行っていない現状がある。しかし、生活保護の方が1名いるので、その都度説明は行っている。言葉は聞いていても理解できていない人や知識の浅い人も多い。今後のためにも、学ぶ機会を設けていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時に書面と口頭による説明を行ない、利用者やご家族の希望や願いを確認しながらホームのケア方針を伝え、疑問や不安が残らないよう説明をし契約を結んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来訪時にホームでの様子を伝えると共に、ご家族の意見や希望を確認し協力してケアを行なえるよう連携を図っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職は個別または会議などを通して職員の意見や提案を聞く機会を設けており、各ユニットのケアの資質向上を反映するように日々努めています。管理者から本社担当者や運営代表者へ伝達するシステムができています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格や経験は給与に反映されていますが、努力や力量が給与に反映されずらくなっています。勤務時間や休日は個々の希望も考慮しながら、両ユニットを兼務することで働きやすい環境を維持できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種外部研修の案内を行ない、希望や必要性のより参加できるよう勤務調整しています。法人内研修を実施することにより職員全体がスキルアップできる機会を作っています。研修参加者が発表できる機会を設けることにより研修内容を全職員が共有できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、学習会などで情報交換を行なっています。また、同法人の事業所が十勝地区に3ヶ所あるため交流を行い資質向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報は皆で共有できるように作成し、信頼関係の構築に繋がっています。入居後も専用シートに引き継ぐことで、今まで馴染んできたことを不安なく生活できるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要な情報は事前に職員に伝えており、それに添いながら関係作りに努めています。不安や要望を伺い耳を傾けており、些細な事でも職員に声を掛けて頂けるような関係構築をめざしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の状態、ADL、医療面、ご家族の介護力、本人の希望などを伺い当ホームでの取り組みを伝えながらよりよい生活が送れるよう援助しています。他の介護保険サービスや民間サービスなどの情報提供を行うなど相談援助も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰介護にならないように配慮しながら、関わりを持つようにしています。できる事とできない事の見極めをしながら、時には職員が支え助けられながら関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の際には声掛けを行ない入居者の最新の状況を伝え把握して頂いています。行事参加などで協力も得られており、家族との関係も構築されてきています。毎日、面会に来てくださる家族もおり、入居前と同様な関係が保つことができています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪れやすいように、また、本人が外へ行きやすいように日々努めています(外泊や買い物のための外出など)入居の際、親族や友人に入居伝達をお願いしており、入居後も交流が継続できるような協力を得て支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、孤立することのないように日々心掛けています。女性同士で言い合うことなどありますが、その都度適切な対応に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設して間もないため支援するところまでのケースに至っていない現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、希望や意向の把握に努め、困難な場合にはノンバーバルコミュニケーションにより意向の代弁などに努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には自宅等へ必ず訪問し、ご家族、ケアマネジャーなどから現在の生活状況の情報収集を行ない、生活歴、生活環境を把握しケアに繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの体調、精神状況に合わせながら、日々その人らしい生活が送れるように努めています。アセスメントシートや体調の記録を読み返すことで把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議やモニタリングをすることで介護計画に反映しています。本人の言動や家族からの意見、要望を伺うことで課題抽出し介護計画作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートは個別に記録しており職員間で情報共有を行なっています。ケアで困った時には試行的に行う方法をとっており職員の意見を反映できるよう実践し介護計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に対応できていない部分もありますが、要望を汲み取れるよう心掛けています。ご家族の希望時には食事提供や宿泊は行えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへ買い物に行ったりなど楽しく生活が送れるよう支援しています。今後も地域の特性を活かしていきたいと思えます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による定期的な往診、必要時には通院介助を行ない安心して生活を送ることができる環境が整っています。家族の希望時には、眼科などの定期通院介助も行う支援を行っています。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から週1回の訪問看護により、細かい助言を頂くことで心身ともに安心して生活を送られています。訪問看護時には、体調面、認知面、心配事なども伝えています。少しずつではありますが入居者とも顔なじみの関係が構築されてきているため受診もスムーズに行えています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設して間もないため、長期入院するケースがないので支援まで至っていない。医療機関とは往診、訪問看護などで情報交換も行っているため、引き続きよい関係を保っていく。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化など定期的(面会時など)に報告し現状が把握できるように努めています。協力医療機関にも助言をいただき支援できるよう取り組んでいます。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を企画し地域の方も参加していただき実施することができました。緊急時対応マニュアルは目に付くところに掲示しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼夜両方を想定した訓練を行っています。ご家族の参加もあり入居者の動き方や対応を感じ取っていただいています。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ひとりひとり不快な対応とならないように日々努めています。改善が必要な場合には振り返りを行ない改善していきます。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が表現しやすいように心掛けています。意思疎通できる方もいるので、要望を叶えられるようその都度検討しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のため、決まったことはありますが、入居者ひとりひとりの時間を大切に過ごしていただけるように努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室時、自ら髪型を決めている方もいます。気候や外出場面に合わせて支援を行っています。			

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器拭きを行なって頂けています。行事のメニューは嗜好に合わせて提供しおいしく食べれるよう工夫しています。体調に配慮しながら引き続き支援していきます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より献立提供が行なわれており栄養バランスは保たれています。食事形態や嗜好については個別対応で提供しています。水分摂取が難しい場合にはゼリーなど代替えで対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ひとりひとりの残存能力や口腔状態に合わせた支援をしています。協力歯科に年1回、歯科検診に来ていただき助言を受けることにより、歯科往診などに繋がっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排尿感覚や1日の水分摂取量を把握することにより、不快感のない排尿支援を行っています。パット類は本人やご家族と話しを行ない適した物を提供しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔の把握やヨーグルトを食べていただく対応をしています。運動は散歩や体操をその日の体調に合わせて無理ないように取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決められているが、体調や気分により次の日に入浴することができる対応をとっています。身体面により長湯ができない方もいますが、入浴が気分転換の場となったり、清潔保持ができるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、その日の体調をみながら休んでいただけよう配慮しています。夜間帯は、光、音、温度などに配慮し入眠しやすい環境を整えています。就寝、起床時間は個別に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬内容は確認できるように掲示しています。服薬方法も掲示しており安全に服用できるよう日々努めています。効果や副作用について知識が不十分な職員もいるので学習の機会を設けたいと思っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや掃除を行える方、編み物ができる方には、編み物で椅子のカバーなど作っていただいています。少しずつ役割ができてきていると思います。		

ふれあいの里 グループホームおとふけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大きな行事についてはご家族の協力のもと行え、新たな発見もできる場となっています。職員が入居者と気軽に外へ行くことができる環境を整えて行きたいと思います。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が現金管理や適切な使い方が困難ですが、自己管理ができる方については、外出し欲しい物を購入することもあります(本人からの依頼により代わりに買ってくることもあります)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時などに、ご家族と電話をかけてもよいのかなど話し合ったうえで支援しています。手紙については支援が行われていませんが、字を書くことができる入居者もいますので今後、取り組みたいと思います。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからリビング全体を見渡せ安全確保ができています。太陽の光など取り入れ温度、湿度、換気に気を配っています。季節感を味わっていただけるように、壁にイラストなどの飾りつけをし雰囲気作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る位置が決まってしまう方もいますが、入居者同士、自然と会話が行われております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使用していたものを持ち込んで下さるようお願いしています。家族写真や入居後の写真を居室に飾らせていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所や物がわかりやすい空間作りに取り組んでいます。認知症高齢者の視点に立ち、不安のない生活を支援しています(カレンダーや時間といった見当識に配慮しています)		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームおとふけ

作成日：平成 26年 2月 15日

市町村受理日：平成 26年 2月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・町内会に加入し行事等には参加させて頂いているが、開設間もない事業所のため地域住民との関係がまだまだ希薄である。 ・実際に隣接している住宅が他町内会であり、ホームの存在自体も知らない住民がいると思われる。	・町内会の区画にこだわらず、多くの近隣住民と顔馴染みの関係となる事で災害時にお互いに支え合える関係を構築する。	・ホームについて理解が深まるよう、地域向けの通信物の発行を行なう。 ・入居者の野外活動を通じ、地域住民と触れ合う機会を多く持つ。 ・地域住民が気軽に来訪できる機会を作る。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。